

平成 26 年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

本年度努力目標	1	学習指導においては、基礎・基本の徹底をはかるとともに、応用力の育成に努める。
	2	進路指導においては、一人ひとりの進路に応じた適切な指導と、自己理解に向けた支援に努め、進路実現に努める。
	3	生徒指導においては、基本的生活習慣の確立に努めるとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神の育成に努める。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	おおむね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※第三者評価実施日とは、最終回の第三者委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	3	名
-----	-------	---	---

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価（3月5日現在）		
年 度 目 標					年 度 評 価（3月5日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○基礎学力の不足は常態的課題である。その克服のためにも、まず「授業」にどう向きあうかを考えねばならない。	学習指導	○一時間一時間の授業に真摯に臨む姿勢を身に付けさせる為の工夫・研究を重ねる。 ○「わかる」ということの内実を充実させる。	○生徒の私語・居眠りは減り、前向きに授業に取り組む姿勢が窺えるか。 ○「わかる」ことが達成されたか。	○私語・居眠りは昨年と同程度残っており、更なる指導の継続が必要である。 ○アンケート結果からは、少しずつ良い方向に向かっているようである。	B	○学習指導に対する満足度は、全体的には上昇し、良い傾向が見られるが、私語・居眠りが依然として残っており、今後も根気強く指導を継続する必要がある。
2	○教室環境を整え、生徒一人ひとりが協同してクラス作りに参加する自発性を養成することに努める。	学級経営	○一人ひとりの役割とその責任を意識づける。 ○他者を常に自己の指標とする協同性を身につけさせる。	○教室は常に整頓されているか。 ○クラスの友人関係は良好か。 ○役割は責任をもって果たされたか。	○全体に評価は上がっており、おおむね達成していると考えられる。	A	○全体に上昇傾向が見られるため、今後も継続していくことが重要と思われる。
3	○基本的生活習慣の確立 ○公平・公正な視点からルールの遵守について身につけさせねばならない。 ○保護者との協力	生徒指導	○あいさつ、遅刻および他を思いやる心、言葉づかいの指導を図る。 ○保護者との連携を密にし、しっかりと協力する。	○基本的生活習慣は身についたか。 ○保護者の理解を得た指導が行われたか。	○生徒指導に関しては、高評価を受けており、ほぼ目標を達成していると思われる。	A	○現在、自転車利用のマナーが問題になっており、来年度の重要な課題の一つと考えられる。
4	○目的を明確にし、自己の将来設計をしっかりと考えさせる。 ○一人ひとりに懇切に接し進路実現に向ける。	進路指導	○的確な進路指導の充実。 ○一人ひとりの適性を見極め、指導することで個々の意識を明確にする。 ○数値目標の設定。	○生徒一人ひとりが自己の進路についてしっかり考えることができたか。 ○数値目標は達成できたか。	○進路指導への満足度は少しずつ上昇しており、ここまでのさまざまな取組の積み重ねが良い方向に向かわせていると思われる。	B	○進路指導全体には、大きな問題は見られないが、若い教員が年々増えているため、教員個々の進路指導力を更に上げていくことが重要である。
5	○すべての生徒が行事や部活動に積極的に参加するよう全体で取り組み、学校力の活性化をはかる。	学校生活	○すべての生徒が協同して行事・部活動に参加できるように的確な指導を行う。 ○部活動の活性化と充実した成果をめざして指導する。	○生徒は積極的に行事や部活に参加したか。 ○部活動は充実した成果をあげることができたか。	○昨年に引き続き、高評価を受けていることから、目標はほぼ達成していると思われる。	A	○行事・部活動は生徒も積極的に参加しており、満足度も高くなってはいるが、行事内容・部活動の指導体制を含め、更なる改革を進めていく必要がある。

第 三 者 評 価	
実施日 平成27年 3月10日	
第三者委員からの意見・要望等	評価
○昨年度と比較して、私語は減少傾向にあるが、居眠りは増加してしまっている。原因をよく考え、対応を考えて欲しい。	B
○「やる気の出るクラス運営」も昨年度より上昇しており、少しずつ改善されている様子が窺える。	A
○毎年、生徒指導という不満が多いと思われる項目で良い評価を得ており、高く評価できる。	A
○アンケート結果からは、特に問題なく、良い評価をされており、今後も継続して欲しい。	A
○運動部・文化部に関わらず、好成績をあげる部活動が増えており、今後も頑張ってもらいたい。	A